

「それぞれの言葉で」

使徒言行録 2:1-13
ガラテヤの信徒への手紙 5:22-23

2023年5月28日
野村 友美 師

<ペンテコステとは>

さて今日はペンテコステ、聖霊降臨日と呼ばれる礼拝です。イエス様が十字架で死なれて復活されてから50日後、弟子たちに約束されていた聖霊が降ったことを記念して、毎年イースターから50日後の日曜日にこうやってお祝いしています。

よくペンテコステは「教会の誕生日」とも言われますけど、まさにこのペンテコステの出来事から、キリスト教会は始まりました。

イエス様を救い主だと信じて従う弟子たちに、神様の霊である聖霊が与えられて、神様からの愛と救いを証言し始めた。このペンテコステの出来事から生まれて、この出来事を引き継いで、今も世界中のあちこちで、聖霊によってイエス様を証言し続けているのが、イエス・キリストの教会なんです。

ちなみにペンテコステというのは、ユダヤ教の大きなお祭りの一つでもあります。いちばん大きなお祭りは過越の祭、かつてエジプトで奴隷として扱われていたイスラエル人たちが神様によって助け出されたこと、いわゆる出エジプトの出来事を記念するためのお祭りです。

イエス様が十字架にかけられる前の晩、

弟子たちと一緒に食べた最後の晩餐がまさにこの過越の祭の食事でした。そして過越の祭から7週間後、つまり50日後に行われるのが五旬祭、イエス様の時代の公用語だったギリシャ語で「50」を意味する「ペンテコステ」と呼ばれたお祭です。

このペンテコステは夏の初めの収穫祭ですが、エジプトを脱出したイスラエル民族に神様からの掟である律法が与えられたことを記念する日でもありました。

そんな五旬祭の日に、今日ご一緒に記念している聖霊の出来事が起こったんです。

<弟子たちに降った聖霊>

イエス様は復活してから40日間、弟子たちと一緒におられました。あなたたちの上に聖霊が降ると、あなたたちは力を受けて、地の果てに至るまでわたしの証人になる。そう約束して、弟子たちを祝福しながら、イエス様は天に上げられました。イエス様を見送った後、弟子たちはエルサレムで滞在していた家の2階に集まって、約束の聖霊を待ちながらいつも祈っていたようです。

そして五旬祭の日、イエス様が天に上げられてから10日ほど経ったこの日も彼らは集まって一緒に祈っていました。すると突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえてきて弟子たちがいる家中に響き渡った、というんです。ものすごく大きな音がいきなり聞こえてきたら、みなさんは咄嗟にどういう反応をするでしょうか？私だったら多分、音

がした方を見て原因を確かめようとし
ます。きつこの時の弟子たちも、びく
りして、音がした方を見ようとして反
射的に上を向いたんじゃないでしょ
うか。

そこに炎のような舌が分かれ分かれに
現れて、一人一人の上に留まった、と
聖書はなんとも不思議な光景を伝え
ています。炎のような舌って、想像力
を試される表現ですね。風も炎も、
聖書では神様の力や霊の働き、そし
て神様が今まさにそこにおられる、
ということを表すものとしてよく登
場します。ちょっと難しい言葉で言
うと、神様の臨在の象徴なんです。

イエス様の弟子たちは、ほとんどが
イスラエル育ちのユダヤ人でした。だ
から天から響く風の音と、この炎の
ような舌を見て、彼らは聖書の言葉
を連想して「あ！神様が今ここに
おられる！」と瞬間的に理解できた
んじゃないかと思えます。

逆に言えば、この風の音と炎のよう
な舌は、これから起こることが他の
何ものでもない、神様によって起こ
される出来事だということを、弟子
たちにいちばんわかりやすい形で教
えているんです。弟子たちだけじゃ
ありません。この出来事を伝えられ
た人たち、今の私たちも含めて、
イエス様の弟子たちの証言を聞く
一人一人に対しても「これは神様
が起こされた出来事だ」と宣言され
ているんです。他の誰かや何かが
起こしたんじゃない、これは確かに
神様がなされたことだ。そう宣言
する現象の後で、弟子たちはみんな
聖霊に満たされて、いろいろな国の
言葉で

話し始めました。

この時に何人の弟子たちがそこに居
たのかはわかりませんが、他の日には
120人ぐらい居たそうですから、そ
のぐらいの人数は集まっていたんじ
ゃないでしょうか。120人もの人
たちがいっせいに話し始めたらど
うなるか、想像してみてください。
大騒ぎの物音を聞いて、大勢の人
たちが集まってきました。

この出来事が起きた五旬祭の日は、
奴隷たち、つまり使用人として働
く人たちにも仕事をさせてはいけ
ない、とイスラエルの律法で決め
られていました。

だからどういう身分の人でもみな
、祭を祝うために仕事を休んでい
たんです。

しかもこういう大きなお祭りがある
時期には、普段は地方の町とか他
の国に住んでいるユダヤ人たちも
、神殿があるエルサレムに巡礼に
来ていました。特に五旬祭は5月
か6月で、ちょうど気候が良く
て旅がしやすいので、過越の祭
よりもたくさんの方が遠くから
来ていたんだそうです。

聖霊が語るままに、いろいろな国の
言葉で話している弟子たちの様子
を見て、集まってきた大勢の人
たちは呆然としました。みんな
それぞれ、自分たちが生まれ育
った故郷の言葉を聞いたからです。

パルティア、メディア、エラム、
メソポタミア、ユダヤ、カパド
キア、ポントス、アジア、フリ
ギア、パンフィリア、エジプト、
キレネに接するリビア地方、ロー
マ、クレタ、アラビア。

ここに挙げられている地名は、当
時のユ

ダヤ人たちが散らばっていた国の全部でした。ユダヤ民族の話し言葉だったアラム語と、当時の地中海世界の共通語だったギリシャ語は大体どこに住んでいるユダヤ人でも理解できたはずです。

でもそれとは別に、外国で生まれ育ったユダヤ人たちは、普段の生活の中では当然それぞれの国の言葉を話していたでしょう。しかもこの時集まっていた人たちの中には改宗者、つまりユダヤ人じゃないけどユダヤ教に改宗した外国人たちもいたことを、使徒言行録は伝えています。

いろいろな国で生まれ育って、いろいろな言葉で生きている人たちがそこにいました。その全員が、それぞれ自分の言葉で、神様がなされた偉大なことについて話されているのを聞いたんです。しかも話しているのは、いかにもいろいろな言葉を知っていそうな偉い学者じゃなくて、見るからにガリラヤ地方から来たと思われる人たち、当時の人々の感覚からしたらあんまり教養とは縁がなさそうな人たちでした。常識では説明できない、でも確かに目の前で起こっているこの不思議な出来事に、みんな驚いて、とまどって、「これは一体どういうことだ？」と言いました。自分の常識に当てはまらないことは受け入れられない、受け入れたくない人たちは、「あいつらは新しいぶどう酒で酔っ払っているだけだ」なんて無理やりな説明をつけて弟子たちを馬鹿にすることで、自分の心を守ろうとしました。

聖霊が引き起こした出来事は、人々を説得したり納得させたり満足させるようなことじゃありませんでした。それどころか、驚かせて動揺させて、それぞれの価値観をひっくり返してでも、そこにいる一人一人のための言葉で、すべての人に神様がなされた偉大なことを証言する出来事だったんです。

<それぞれの言葉で>

このペンテコステの出来事は、旧約聖書の創世記が伝えるバベルの塔の物語を、私たちに思い出させます。世界中が同じ言葉を使って同じように話していたという、古い時代。神様の支配を振り払って、自分たちの思い通りにすべてを支配しよう、と考えた人間たちは、天に届く高い塔を建て始めました。

欲望を満たすために協力しあって、どんどん暴走していく人間たちの姿を見て、神様は人間たちの言葉をばらばらになさいました。これはただ単に、反抗的な人間たちを神様が懲らしめたという話じゃありません。神様の思いを無視する傲慢さと、自分の欲望に引きずられてしまう弱さが、結局は私たち人間をバラバラに引き離して、お互いに分かり合えなくさせてしまう。そういう罪の実態を、バベルの塔の物語は私たちに教えているんです。

ペンテコステの日、イエス様の弟子たちに降った聖霊は、彼らの言葉を通してそこにいたすべての人を一つに結び合わせました。同じ一つの言葉によってじゃ

なくて、同じ一つの良い知らせによって、聖霊はバラバラの人間たちを結び合わせたんです。お互いの罪によって引き離されている私たち、すべての人が、神様の偉大な業によって、つまりイエス様の死と復活の出来事によって、その罪から解放された。この良い知らせ、福音と呼ばれる出来事が、一人一人のための言葉で証言されたのが、ペンテコステの出来事です。いろんな国で、いろんな身分で、いろんな環境で生まれ育ったすべての人に、それぞれのための言葉で、同じ神様からの愛と救いが伝えられた。

それが今日、私たちがお祝いしているペンテコステの出来事なんです。

どこか一つの国の言葉に、何か一つの同じ形に、全員を無理やり押し込むようなやり方を、聖霊はなさいませんでした。

それぞれに違う人たちに、それぞれのための言葉で語りかけて、同じ神様からの愛で一つに結び合わせる。そういうやり方をお選びになった聖霊が、今も教会と一緒に働いておられます。

このことを教会は、私たちは、いつも忘れないでいたいと心から願います。

初期の教会を形作った使徒たちの1人、パウロは新約聖書のガラテヤの信徒への手紙で、聖霊の働きが生み出すものを

「霊の結ぶ実」と表現しました。

「これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、

柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。」（ガラテヤ5：22－23）

愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制。パウロが「霊の結ぶ実」と呼んだものはどれも、私たちが自分と他の誰かをどちらも尊重して、大切に扱うことから生まれてくるものです。

自分も、目の前の相手も、どこで生きるどんな人も、一人一人が神様から愛されて、尊重されて、大切に扱われている。

そのことに心を向ける時にこそ、聖霊の働きが私たちの間に実を結ぶのだと、パウロは教えているんです。

聖霊の働きが生み出す愛を、喜びを、平和を、寛容を、親切を、善意を、誠実を、柔和を、節制を、どんな時も私たちが願い求めていられますように。

それぞれに違う一人一人に、それぞれの言葉で語りかけてくださる聖霊の働きに信頼して、イエス様の証人として生きることが出来ますように。

自分自身のため、またお互いのために、聖霊の助けを祈りながら今日も一緒にそれぞれの生活へと送り出されていきましょう。

お祈りいたします。